

企業ニュース 日揮ホールディングス

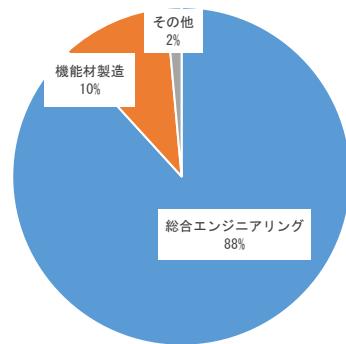
(東証プライム : 1963) <https://www.jgc.com>

作成者: 兵藤三郎

LNG分野のトップコントラクター

1928年、日本揮発油として設立、米国ユニバーサル・オイル・プロダクツ(現UOP)と提携し同社のライセンス事業を主体に事業推進。1930年代よりエンジニアリング事業を開始、戦後復興と高度経済成長の波の中で石油精製・石油化学プラントを相次いで受注・建設した。1960年代以降は、日本での豊富な実績を足掛かりに海外にも本格展開する一方、事業の多角化に着手、原子力・医薬・病院分野にも参入する。1976年、社名を日揮に変更。2000年代に入り、新興国などでエネルギー需要が拡大、原油価格の高騰などもありプラント建設が増加。当社グループはLNGプラント、天然ガス処理プラントを相次ぎ受注・建設し、LNG分野のトップコントラクターとなる。石油精製触媒やファインケミカル材料、セラミック材料なども展開。2019年に持株会社体制に移行、現社名に変更した。

◇22.3期売上高構成比



(出所) 日揮ホールディングス資料より
CAM作成

エネルギー業界の設備投資が加速

22.3期の連結業績は、売上高が4,284億円、前期比1%減、営業利益が207億円、同10%減。総合エンジニアリング事業において複数の長期大型案件が工事序盤であった影響などで減収減益だが、利益面では資材価格高騰が想定以下に収まることや円安影響により粗利益率が計画を上回り、営業利益は計画比7億円上振れて着地した。受注高は3,159億円、5,000億円の計画に対し大幅未達。第4四半期に受注を見込んでいた中東の大型原油ガス処理プロジェクトについて、2月半ばに最終契約交渉権を獲得したものの、ウクライナ侵攻を受けた資材価格などの高騰により契約締結が先送りとなっていることが要因。期末の受注残高は1兆2,159億円と豊富。

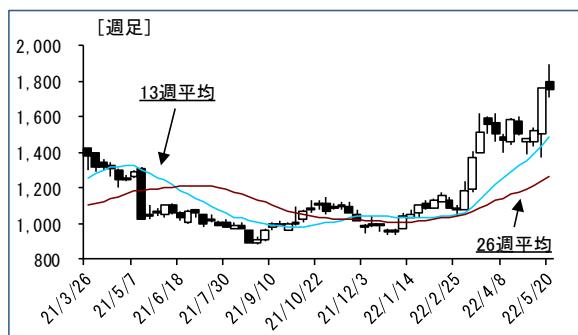
23.3期連結業績の会社計画は、売上高が6,000億円、同40%増、営業利益が260億円、同26%増。海外での大型案件の進捗などにより大幅増収、不稼働損失の解消や新規案件の貢献を見込み営業利益は大幅増。為替前提は1ドル123円で現行水準からは保守的な設定、コスト影響などのリスクも反映した計画。欧州などのエネルギー安全保障意識の高まりを受け、エネルギー業界の設備投資を加速する動きも見られ、経営環境は良好に推移しよう。

[株価動向・投資判断]

エネルギー投資再開の恩恵を享受する企業。豊富な受注残もあり順調な業績が予想できよう。

<1963 日揮HD 業績: 日本基準>

	売上高 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	経常利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	[今期予想の配当金は発行会社予想]	
					1株利益 円	1株配当 円
21.3	433,970 (▲ 10)	22,880 (13)	25,506 (14)	5,141 (25)	20.4	12.00
22.3	428,401 (▲ 1)	20,688 (▲ 10)	30,028 (18)	▲ 35,551 (-)	▲ 140.8	15.00
23.3 予	600,000 (40)	26,000 (26)	30,000 (▲ 0)	20,000 (-)	79.2	24.00



[主要株価指標]	(売買単位 : 100株)
株価 (2022/5/20)	1,755 円
年初来高値(高値日)	1,894 円 (22/5/16)
同 安値(安値日)	971 円 (22/1/4)
予想 P E R (23.3予)	22.2 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,532.7 円
P B R	1.15 倍
予想配当利回り	1.37 %
(1株当たり配当金年24.00円)	
ROE (22.3)	▲ 8.8 %
発行済み株式数	25,934 万株